様式１

令和6年度　調布市立八雲台小学校　学校経営計画（学校長　上田　義孝）

学校の教育目標		
◎思いやりのある子ども （心の教育の充実）	○よく考える子ども （‘確かな学力’の定着を図る授業の充実）	○健康な子ども （体力・健康増進の充実）

目指す学校像（ビジョン）　例）学校像，教員像，児童・生徒像

「一人一人の子どもが安心して通うことができる学校」

◎日本国憲法等に示された人権尊重の精神を基調とし，平和を愛し，地域社会や国際社会において信頼と尊敬を得られ，徳・知・体の調和のとれた成長と，国際化，情報化の進展など，社会の変化に主体的に対応できる力を身に付けることを目指して，調布市教育プランに沿って，上記の目標を定め，その達成を目指す。

　将来の日本及び国際社会の担い手として，児童に豊かな人間性・社会性を育成し，確かな学力の定着を図り，運動に親しませるなど生涯を健康に過ごすための素地を培う。そのために，児童一人一人が「学校で安心して学習できる」と思える学校づくりを目指したい。「安心」というのは教員からも児童間でも家庭でも，自分の存在価値を認められることである。学校・家庭・地域が協力しあい，児童が自分の目標をもって学習や学校生活に取り組むことにより，困難を乗り越え，達成感を味わわせたい。そして児童一人一人が学校で自己の成長を実感し，自分に自信をもつことができる，「安心して通うことができる学校」を目指したい。

ビジョンの設定理由 （本校の現状と課題）	○児童の学力は，全国学力学習状況調査によると基礎的な知識・技能については平均的であるが，学力分布の２極化傾向がある。 個別最適化の授業を推進するにあたり、習熟度の高い児童への発展的な学習への指導，また基礎的事項が未定着である児童への基礎的な事項の確実な定着、さらには学力向上に向けた指導が課題である。このため，授業改善を行いUDや特別支援の考えを用いて，学習指導要領の目指す理念を実現すべく取組んでいく。 ○自分の感情や行動をコントロールすることが難しく，コミュニケーションスキルが未熟な児童が多くいる。コミュニケーションスキルの向上や自己肯定感・自尊感情の育成が課題である。いじめや不登校の課題も，丁寧に解決していく必要がある。 ○体力や健康面では，基礎体力の向上（特に運動に対する意欲の向上）と，心身の維持管理意識向上が課題である。 ○教員一人一人の指導力・授業力・諸対応力を高め，組織として授業や保護者に対応できるよう，教職員の組織力の向上に取り組む。

中期的な経営目標

1　心の教育の充実に向け，感情や行動を調整する力を付け，児童相互の良好な人間関係を確立させる。そして自他を尊重する態度の育成を図る。

2　豊かな情操と温かい人間関係を醸成する教育活動を行い，小中連携や幼保小連携交流等に取り組み，心の育成と安定した学びの接続・連続を目指す。

3　基礎的な知識・技能の定着を基盤として，思考力・判断力・表現力を育成し、確かな学力を定着させる。校内研究を通して教員の授業力向上を図る。

4　体力向上・健康教育の充実に向け，生涯を健康に過ごすための素地を育成する。

5　地域の教育力，地域の人材を生かした教育活動を展開し，地域への愛着を育てる。また，学校・保護者・地域で共に子どもを育てる意識を高める。

人・組織　児童の実態に合わせた授業ができる教員を育成する。通級指導が在籍学級の指導に生かされるよう教員間の連携を密にする。

調布市立学校における共通した領域　＜短期的な経営目標＞

1　豊かな心（徳）	2　確かな学力（知）	3　健やかな体（体）
(1)　取組目標（具体的方策）	(1)　取組目標（具体的方策）	(1)　取組目標（具体的方策）
①　主体的に考え，議論する道徳の授業を実践し，規範意識を育成する。	①　全学年で交換授業を行い，分かりやすい学びを提供する。	①　運動量を確保した体育科授業の実践を積み重ねる。
②　挨拶・言葉遣い等の基本的な生活習慣を各教科の授業や，家庭・地域と連携して定着させる。	②　モバイル端末を効果的に活用し，協働的な学びの授業を行う。	②　運動を日常化し、体を動かす意欲向上のため，休み時間に児童が外遊びをできるようにする。
(2)　成果目標（数値目標）	(2)　成果目標（数値目標）	(2)　成果目標（数値目標）
①　道徳の時間等，心の教育の充実に努めていると肯定的な回答８０%を目指す。	①　児童が主体的に取り組む学び合いや，観察・体験の授業を１/３の授業で行う。	①　運動量を確保した授業を行い，授業の２/３は運動できるようにする。
②　基本的な生活習慣が身に付くように家庭と学校で指導をしているという回答９０%を目指す。	②　全教員が１日１回以上，ＩＣＴ機器または児童用タブレットを活用した授業を行う。	②　１日１回は全校児童が，体育の授業または外遊びができるようにする。

学校の特色を生かした領域　＜短期的な経営目標＞

4　保護者・地域との連携	5　特色ある教育活動	
(1)　取組目標（具体的方策）	(1)　取組目標（具体的方策）	
①　授業参観やスポーツフェスティバル・学習発表会を通して教育活動を公開する。	①　特別支援学校との交流，副籍交流の活動を適切に行う。	
②　学校ホームページの更新頻度を高め，児童の様子を保護者・地域と情報共有できるようにする。	②　校内研究で国語科を中心とした指導の工夫について，全教員で取り組み，授業改善を図る。	
(2)　成果目標（数値目標）	(2)　成果目標（数値目標）	
①　学校は授業などの公開を積極的に行っているという肯定的な回答 90%を目指す。	①　様々な感染症予防と防止対策を講じて，年１回以上直接または間接交流を行う。	
②　情報発信をしていると肯定的な回答 90%を目指す。	②　校内研究で年３回の研究授業を行い，授業力を高め，子どもも教員も学習・指導の充実感を味わう。	

人材育成・組織運営

○校内研究会や各種研修会を通して、教員一人一人の授業力向上を図るとともに学年における指導の統一を図る。

○教科担任制（交換授業）を取り入れ，学年運営を円滑に進めるとともに，全体指導の学習・生活指導力を高める。

○校内委員会の充実を図り，いじめにつながる事案の早期解決を図る。また，児童の特性を見極めた通級指導への適切な接続をすすめる。